

セメスターシリーズ
Semester Series



AN OUTLINE OF
**ENGLISH
LITERATURE**

イギリス文学概観

Michiyoshi Aijima



N A N ' U N - D O

An Outline of English Literature
Copyright ©2004 by Michiyoshi Aijima

ヒアリング || リーディングの力がつく

An Outline of English Literature
イギリス文学概観

別売カセットテープ 全1巻

収録箇所

テキストの英文が収録されています。

お近くの書店へお申し込みのうえお買い求めください。

はしがき

本書は大学および短期大学の英文学科で学ぶ学生を対象に、手短かにイギリス文学の歴史を概観できるように書きました。なにぶん長い長い歴史を、50ページたらずにまとめるのは至難なことで、まず作者や事項の選択に苦心しました。演劇の歴史にふれる余裕がなかったのは残念です。ぜひ自習してください。それでもここにあつかわれたくらいの知識があれば、著者の経験では、ロンドン大学の平均的な新生に比肩できると思います。

近ごろ、一般の歴史教育では、「近・現代史」を重視する傾向にあります。文学通史では、最「現代」は作者および作品の評価も定まらないので、あまり詳しくあつかわないのが普通です。本書でも紙幅の関係もあり、すっかり手うすになっております。だが、現代作家は作品も手に入りやすく、意欲さえあればいくらでもご自分で読みすすむことができます。みずからの鑑識眼で、好きな作者を発見してください。

本書は教室でご講義される先生方の補いを前提としております。予習その他自習のために、さらに詳しい知識をお求めの学生諸君・諸嬢は、拙著『イギリス文学の流れ』（南雲堂・A5判、334ページ）をご参照いただければ幸いです。また、ピーター・ミルワード、松浦美智子両先生が、同じシリーズで著わされた、『英詩入門』を併読されることで、本書の不足分を大きく補うことができましょう。

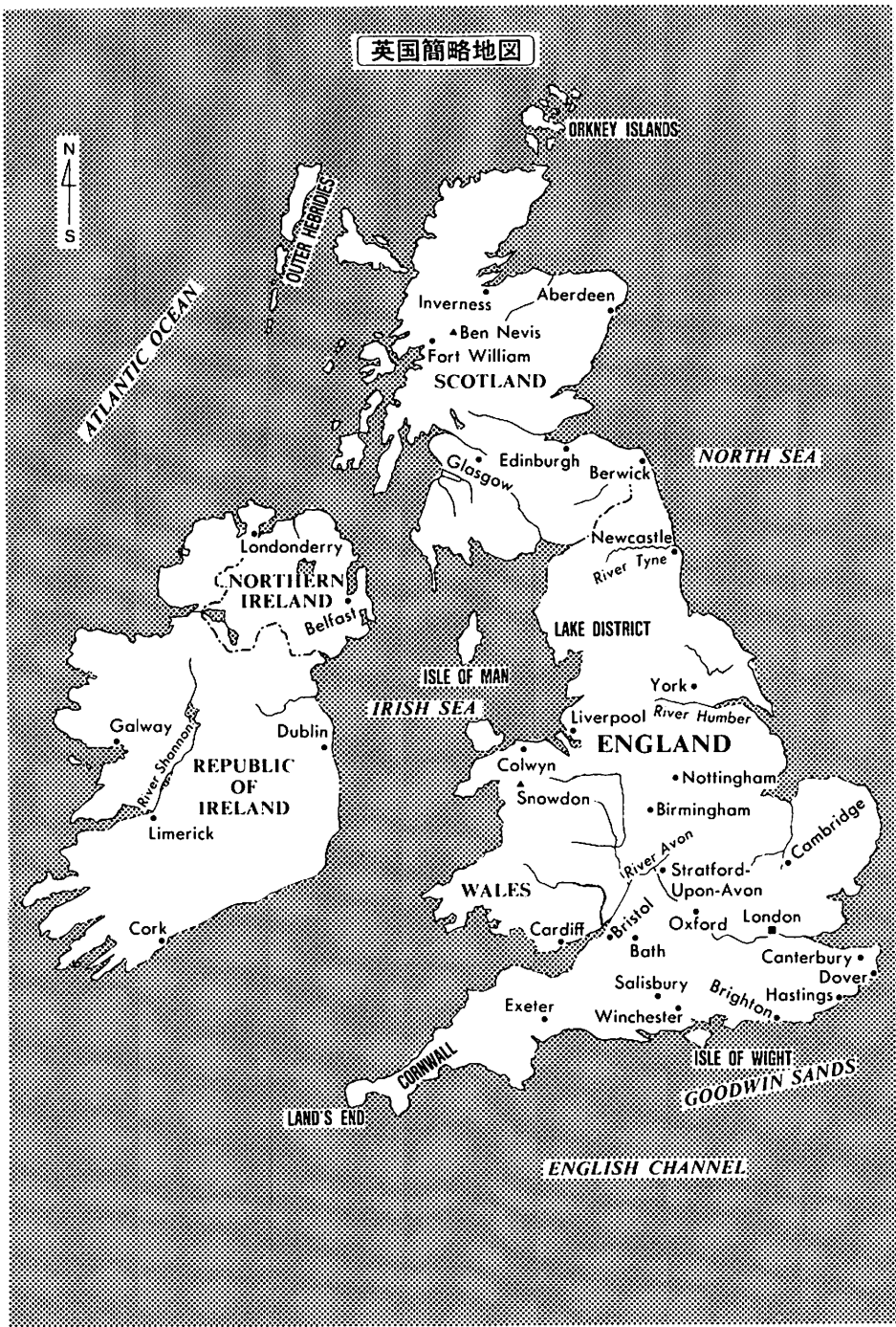
イギリス文学を学ぶことをきっかけに、みなさんが一冊でも（たとえ翻訳でも）、原作を楽しんでいただきたいものです。イギリス文学の、とくに古典は、人生経験がますますつれて、ますますおもしろくなります。途中で投げだしては、元も子もありません。

相 島 倫 嘉

目次

- はしがき 3
- 英国簡略地図 7
1. イギリスという国 9
 2. 古英語 (OE) 時代 10
 3. 中英語 (ME) 時代 チョーサー
(Geoffrey Chaucer) 11
 4. エリザベス時代 (1) スペンサー
(Edmund Spenser) 12
 5. エリザベス時代 (2) マーロー
(Christopher Marlowe) 13
 6. シェイクスピア
(William Shakespeare) (1) 14
 7. シェイクスピア
(William Shakespeare) (2) 15
 8. ベン・ジョンソン (Ben Jonson) 16
 9. ジョン・ダン (John Donne) 17
 10. 欽定訳聖書 (*the Authorised Version*) 18
 11. ミルトン (John Milton) 19
 12. ドライデン (John Dryden) 20
 13. ポープ (Alexander Pope) 21
 14. サミュエル・ジョンソン
(Samuel Johnson) 22
 15. リチャードソン
(Samuel Richardson) 23
 16. オースティン (Jane Austen) 24
 17. ブレイク (William Blake) 25
 18. ワーズワス (William Wordsworth) 26
 19. コールリッジ
(Samuel Taylor Coleridge) 27
 20. バイロン (George Gordon Byron) 28
 21. シェリー (Percy Bysshe Shelley) 29
 22. キーツ (John Keats) 30
 23. ヴィクトリア時代について 31
 24. テニソン (Alfred, Lord Tennyson) 32
 25. ブラウニング (Robert Browning) 33
 26. デイケンズ (Charles Dickens) 34
 27. エミリー・ブロンテ (Emily Brontë) 35
 28. ハーディ (Thomas Hardy) 36
 29. オスカー・ワイルド (Oscar Wilde) 37
 30. E. M. フォースター
(Edward Morgan Forster) 38
 31. ヴァージニア・ウルフ
(Virginia Woolf) 39
 32. ブルームズベリ・グループ
(Bloomsbury Group) 40
 33. D. H. ロレンス
(David Herbert Lawrence) 41
 34. ジェイムズ・ジョイス (James Joyce) 42
 35. T. S. エリオット
(Thomas Stearns Eliot) 43
 36. W. H. オーデン
(Wystan Hugh Auden) 44
 37. アイリス・マードック (Iris Murdoch) 45
 38. 現代文学概観 46

英国简略地图



1 イギリスという国

□ 英国イコール England ではない

連合王国 (the United Kingdom) は Great Britain (England + Scotland + Wales) と Northern Ireland の 4 国からなる。首都はそれぞれ、London, Edinburgh, Cardiff, Belfast. Joyce や Yeats にゆかりの Dublin は Republic of Ireland (=Eire) の首都で、別な国。

□ 気候風土 (climate) について

ロンドン北海道より北にあるが、メキシコ暖流により冬も比較的暖かい。早春はともかく、春はすぐに夏に移行し、秋の到来は早い。真夏は3時頃から小鳥のすさまじい鳴き声がきこえ、やがて夜はあけるが、夜は11時ころまで暗くならない。真冬は8時頃に明るくなり、4時前には暗くなる。小学校は通常8時半始業、4時終業だから、生徒は暗い中を登校し、暗い中を帰宅する。

□ 国民性 (national characters) について

イングランド人は常に冷静、沈着だと、スコットランド人はやや冷やかに見ている。スコットランド人一般はケチだと、イングランド人はいう。ケルト(もとは南国人)の血が流れている、スコットランド人、ウェールズ人、アイルランド人は情熱的で、外国人の旅人にもすぐにフレンドリーにしてくれる。イングランド人はいったん本当の友だちになると、絆はかたく親切この上なし。

□ 英語の歴史を3つに区切って考える

古英語 (Old English・OE)	西暦 700年 - 1100年
中英語 (Middle English・ME)	1100年 - 1500年
近代英語 (Modern English・ModE)	1500年以降

* 古英語最古の作品『ベオウルフ』でもだいたい7世紀末から8世紀初頭に書かれたもので、イギリスは作品の舞台とはなっていない。日本には『古事記』と『日本書紀』という完全な作品が6世紀初頭にはすでにあった。